



SmartDrive

ガソリン価格 高騰から考える 車両活用で意識 すべきこと



はじめに

ガソリン価格が補助金のおかげで抑えられていることをご存知ですか？



新型コロナウイルスやウクライナなどの国際情勢、円安といったさまざまな要因で、物価が高騰しています。
その中でもエネルギー・原材料が大きく値上がりしたことでガソリン価格が大幅に上がっています。

2024年1月時点のガソリン価格は、本来であれば全国平均で190円/Lを超えるような価格相場でした。

一方で、**実際の1月時点の全国平均価格は約175円/L**となります。なぜでしょうか？

その答えが、政府が支給している「**燃料油価格激変緩和事業**」という補助金です。

実は2022年から、我々はこの補助金のおかげでガソリン価格を170円/L前後で購入できています。

本資料では、この「**燃料油価格激変緩和補助金**」とは何なのか？を説明します。

その上で、我々が考えるべきリスクと対策できることを提示しています。

目次

01 本資料のポイント

02 燃料油価格激変緩和対策事業とは？

- ガソリン価格高騰の背景
- ガソリン価格高騰への対応策（燃料油価格激変緩和対策事業）
- 燃料油価格激変緩和対策事業の効果
- 事業終了の可能性について
- 燃料油価格激変緩和対策事業のまとめ

03 今後企業が取るべき対応

- 対策事業終了を見据えて、今後企業が取るべき対応
- 燃費改善を意識する際のポイント
- 車両での移動機会を減らすためのポイント

04 SmartDrive Fleetでできること

01 本資料のポイント

本資料のポイント

ガソリン価格の高騰と対策

- コロナ、ウクライナの海外情勢、円安などで物価が上昇している
- 特にガソリン価格は大幅に値上がりをしている、本来ならば**全国平均190円/Lの価格帯**に高騰している
- 「**燃料油価格激変緩和事業**」という補助金のおかげで、**2022年から170円/L台に抑制**され続けている

これからやるべきこと

- 補助金終了に備えて大きく**二つの取り組み**が必要である
 - ①車両活用の際に、**燃費改善**に意識して取り組むこと
 - ②そもそも**車両を活用する機会を減らせないか**、仕事の進め方を見直すこと

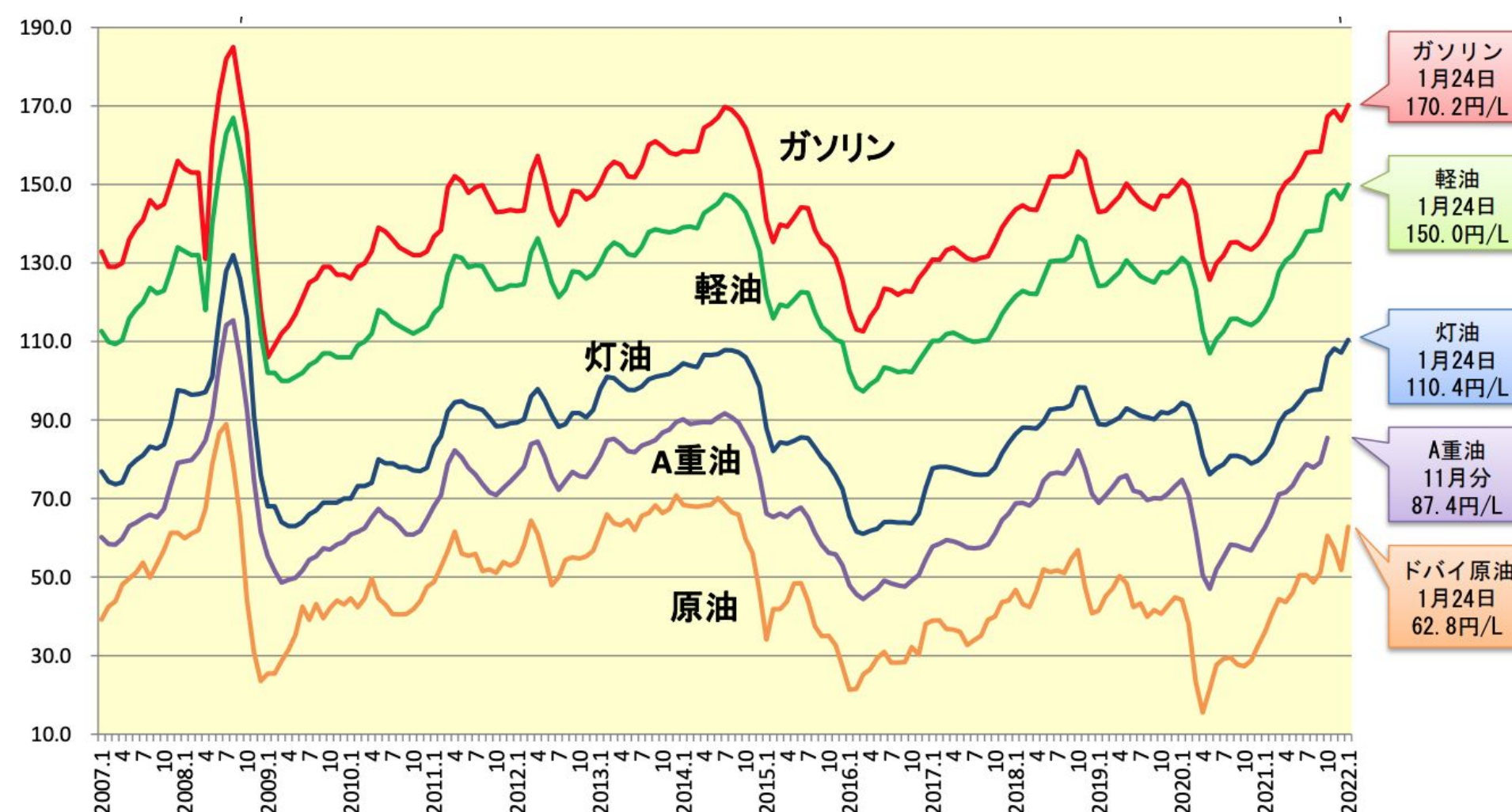
02 燃料油価格激変緩和対策事業 とは？

ガソリン価格高騰の背景

新型コロナウイルスをきっかけに産油国の生産停滞や地政学的不安から原油が高騰

2022年1月経済産業省資源エネルギー庁で提出された「コロナにおける燃料油価格激変緩和対策事業の発動について」によると、①新型コロナウイルスによる経済影響、②一部産油国による生産の停滞、③地政学的な不安定さの3つを理由に原油価格が高騰しました。

それに伴い、ガソリン価格は170円/Lを超え、2008年9月以来、13年4ヶ月ぶりの高値水準となりました。それ以降、国際情勢や経済・エネルギーをめぐる情勢を踏まえて、現在まで状況が変わらず、補助が継続しています。



ガソリン価格高騰への対応策（燃料油価格激変緩和対策事業）

対策のために「燃料油価格激変緩和事業」が2022年1月から発動された



前提

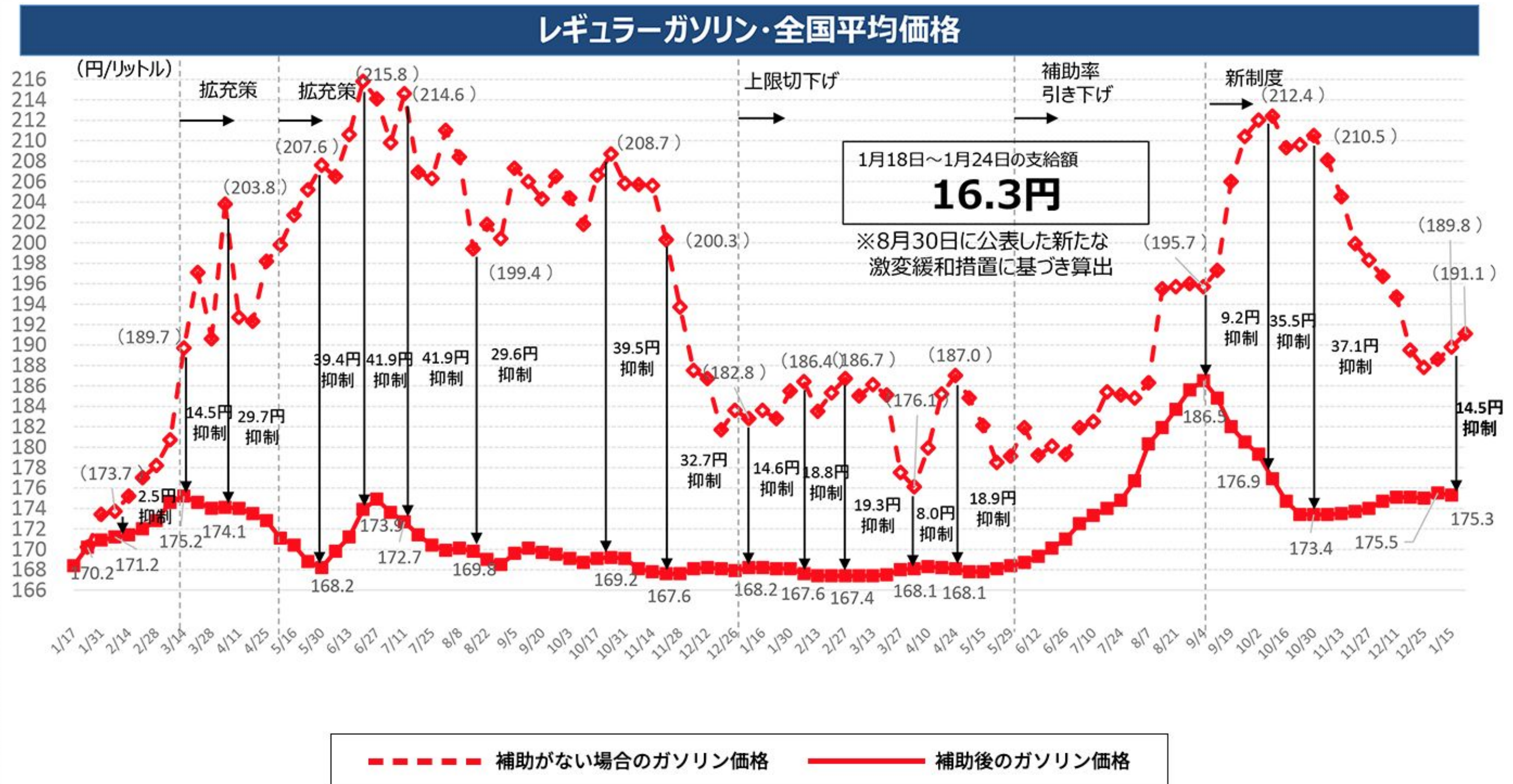
- コロナからの経済回復の重荷になる事態を防ぐために発動された、時限的・緊急避難的な措置
- 小売価格の値下げを促すものではなく、燃料油価格の激変緩和が趣旨で、急激な値上がりを抑制するもの
- 輸送コストの違いなどから小売価格に地域差があるため、全地域170円/L以下に抑えようとするものではない

仕組み

- **発動条件:** レギュラーガソリンの価格が、170円/L（全国平均）を超えた時
- **補填範囲:** 当該価格が170円/Lを超えた分を、最大5円/Lの範囲内で補填
- **算定根拠:** 発動から4週間ごとに1円/Lずつ切り上げる
- **対象油種:** ガソリン、軽油、灯油、重油
- **事業期間:** 2023年3月まで（その後、現在まで継続中）
- **スキーム:** 元売事業者・輸入業者に価格抑制の原資を支給、卸価格の抑制を通じて、小売価格の急騰を抑制

燃料油価格激変緩和対策事業の効果

2022年1月の発動以降、5～30円以上の価格高騰を抑制し続けている



対策事業終了の可能性について

国際情勢や原油価格などを見極めながら条件と補助の期限を延長してきた（24年4月まで）

最新の閣議決定（2023年11月2日）では、一連の補助措置を**2024年4月末日**としている
 「緊迫化する国際情勢及び原油価格の動向など経済やエネルギーをめぐる情勢等を $\square$ 極め、柔軟かつ機動的に運 $\square$ しつつ、**措置を2024年4月末日まで講ずる**」（※令和5年11月 資源エネルギー庁資料抜粋）

支給対象期間	2022年 1月27日～3月9日	3月10日～4月2	4月28日～9月末	～12月末	2023年1月～		
					1～5月	6～9月	9月以降
補助上限額	5円	25円	35円 さらなる超過分についても 1/2を支援		補助上限を緩やかに調整 ※補助上限を 35円→25円まで 毎月2円ずつ引き下げ	段階的に縮減 高騰リスクへの備えを強化 ※25円以下の部分は、補助 率を2週ごとに1/10ずつ引き下 げ、25円超の部分は、補助率 を2週ごとに0.5/10ずつ引き上 げ	17円超の部分は全額補 助 17円以下の部分は補助 率% ※9月の補助率は3/10とし、 10月以降は補助率を3/5とす る （流通の混乱を防ぐ 既報）
発動基準額	170円 (4週ごとに1円切り上げ)	172円	168円				
対象油種	ガソリン、軽油、灯油、重油		ガソリン、軽油、灯油、重油、航空機燃料				
財源予算	令和3年度補正予算等：893億円 令和3年度予備費等：3,580億円		令和4年度予備費 ：2,774億円 令和4年度補正予 算：1兆1,655億円	令和4年度予備費：1兆 2,959億円	令和4年度第2次補正予算 $\square$ 3兆272億円 令和5年度補正予算 $\square$ 1,532億円		

燃料油価格激変緩和対策事業のまとめ

事業の背景

- 新型コロナウイルスをきっかけに産油国の生産停滞や地政学的不安から原油が高騰
- 現在までその影響が継続している

事業による影響

- 2022年1月にガソリン価格が170円を超え2008年9月以来、13年4ヶ月ぶりの高値水準へ
- 現在までその影響が継続している

事業を通じた対策と懸念

- 「燃料油価格激変緩和事業」が2022年1月から発動された
- 2022年1月の発動以降、5～30円以上の価格高騰を抑制し続けている
- 条件や期限は見直し続けられてきたが、2024年4月での終了が予定されている（2024年2月時点）

03 今後企業が取るべき対応

対策事業終了を見据えて、今後企業が取るべき対応

現状把握

- ガソリン代に関わる記録を収集・保管し**現在の状況を把握**する
 - 給油の明細（支払っているガソリン代）、運転日報（走行距離）、車両予約状況（車両の稼働予定率）など

分析・対策検討

- 収集したデータを基に、**改善点を洗い出す**
 - 不要な移動がないか、ドライバーや車種でガソリン代のばらつきがないか など

対策実行

- 補助金終了に備えて決定した**対策を推進**する
 - エコドライブの意識啓蒙や指導の徹底、安全運転を推進し不用意な支出を削減（保険料、修繕費など） など
 - 会議方法の変更（客先訪問からオンライン会議へ）、移動手段の切り替え（公共交通機関を使う） など

燃費改善を意識する際のポイント

エコドライブ実施に必要な10のポイントを理解して日々の運転に活用する

1	燃費の把握	燃費計・エコドライブナビゲーション・インターネットなどのエコドライブ支援機能を使って習慣化
2	ふんわりアクセル	最初の5秒で、時速20Km程度を目安にアクセルを踏むことで10%程度燃費が改善
3	車間距離の確保	一定の速度を保ち、ムダな加速・減速を減らすことで、市街地では2%、郊外では6%程度の燃費改善
4	早めの減速	早めにアクセルを離すことでエンジンブレーキが作動し2%程度の燃費改善、減速や下り坂にも有効
5	エアコン利用の最適化	- 暖房時はエアコンOFF、冷房も冷やしすぎないこと - 車内と外気が同じ25℃の場合、エアコンのつけっぱなしで12%程度燃費が悪化
6	ムダなアイドリングの抑制	アイドリングを10分間行うことで、消費される燃料は130cc程度
7	余裕を持った出発	1時間のドライブで道に迷い、10分間余計に走行すると17%程度燃料消費量が増加
8	タイヤの空気圧点検・整備	点検・整備を忘れて空気圧が適正值より不足すると、市街地で2%程度、郊外で4%程度燃費が悪化
9	不要な荷物の削減	100kgの荷物を載せて走ると、3%程度燃費が悪化
10	迷惑駐車禁止	迷惑駐車は燃費悪化と交通事故の原因、迷惑駐車が少ないと平均速度が向上し、燃費の悪化も抑制

参考:環境省 COOL CHOICE 「エコドライブ10のすすめ」 <https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/ecodriver/point/>

燃費改善を意識する際のポイント

エコドライブ10のポイントをケース別に当てはめて実施する

運転が不慣れな方向け

運転以外の部分で
事前の確認や意識を
持ってみましょう

タイヤの空気圧から
始める点検・整備



不要な荷物は
おろそう



エアコンの
使用は適切に



運転が得意な方向け

エコドライブの
テクニックを
実践してみましょう

ふんわりアクセル
「eスタート」



車間距離にゆとりを
もって、加速・減速の
少ない運転



減速時は早めに
アクセルを離そう



運転マナーも 意識したい方向け

アイドリングや
出発時間、迷惑駐車を
意識してみましょう

ムダなアイドリングは
やめよう



渋滞を避け、余裕を
もって出発しよう



走行の妨げとなる
駐車はやめよう



車両での移動機会を減らすためのポイント

少しでも車両を用いた移動以外の方法に変える余地がないか検討し実行する

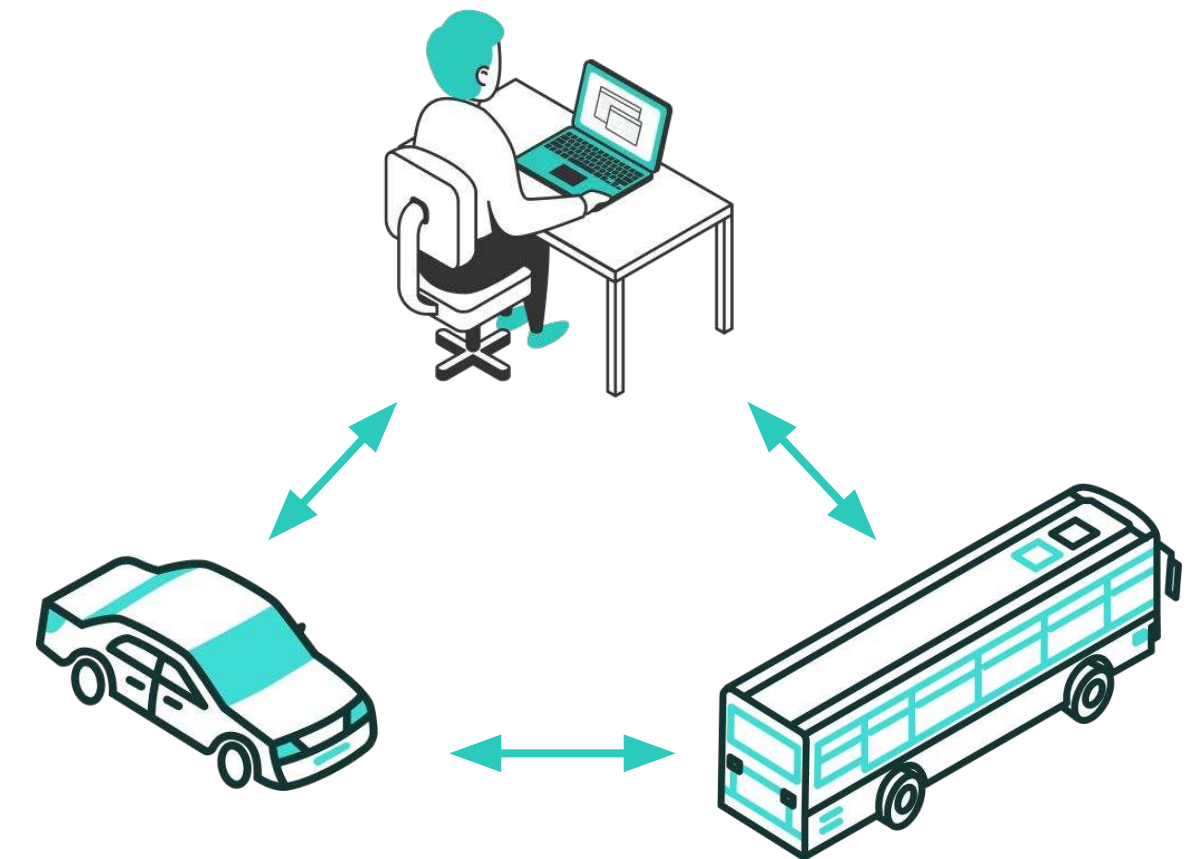
移動の現状を把握する

給油明細、運転日報、車両予約状況などを
集計して現場を把握する



改善点を洗い出し、対策を推進する

公共交通機関に換えられる移動はないか？
オンライン会議に換えられる訪問はないか？など



車両での移動機会を減らすためのポイント

「移動先・頻度・手段・ルート」4つの観点でムリ・ムラ・ムダを洗い出す

ポイント

POINT1

車両の利用を減らすために、
予約表や日報を集計する。



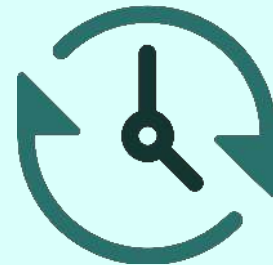
POINT2

走行状況や活用状況、
行き先などを把握する。



POINT3

移動先、頻度、手段、ルート、
どの観点で移動ロスが
発生しているか見極める。



POINT4

取引先と交渉する、
ルートを変えるなど対策を講じる。



車両での移動機会を減らすためのポイント

「移動先・頻度・手段・ルート」4つの観点でムリ・ムラ・ムダを洗い出す

ポイント

POINT1

車両の利用を減らすために、
予約表や日報を集計する。

POINT2

走行状況や活用状況、
行き先などを把握する。

POINT3

移動先、頻度、手段、ルート、**どの観点**
で移動ロスが発生しているか見極める。

POINT4

取引先と交渉する、
ルートを変えるなど対策を講じる。

営業用車両における車両走行距離のロス構造

改善前

C O 2 排 出 量	車 輛 走 行 距 離 ÷ 車 輛 総 利 用 時 間	ロ ス	非重点顧客訪問 ロス	・ 非重点顧客への多頻度訪問 (営業資源配分計画の未設定)
			イレギュラー対応 ロス	・ 自社責任のクレーム対応訪問の頻発 ・ 訪問ツール／工具忘れなど手戻り訪問
			代替手段使用余 地ロス	・ 近接エリア混雑時の自動車訪問 ・ FAX/TEL/メールの非効率な使用
			非効率ルートロ ス	・ 営業拠点間での訪問エリア交錯 ・ 非効率な顧客訪問ルート計画
		正 味 必 要 走 行	計画的訪問 計画的走行	・ 重点顧客との商談など、本来的に必要な 訪問活動における移動

営業資源配分分析

イレギュラー対応分析

営業・配送ネットワーク分析

改善後

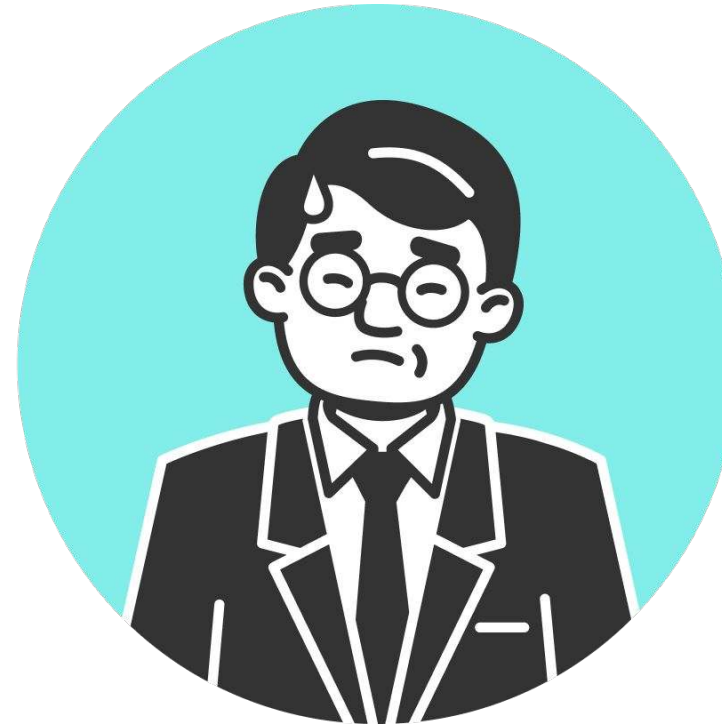
C O 2 排 出 量

車 輛 走 行 距 離 ÷ 車 輛 総 利 用 時 間

対策の流れはわかったけれど・・・

紙で管理していて
手間がかかる・・・

分析や対策検討の
時間がない・・・



対策を実行し切るのは
大変・・・

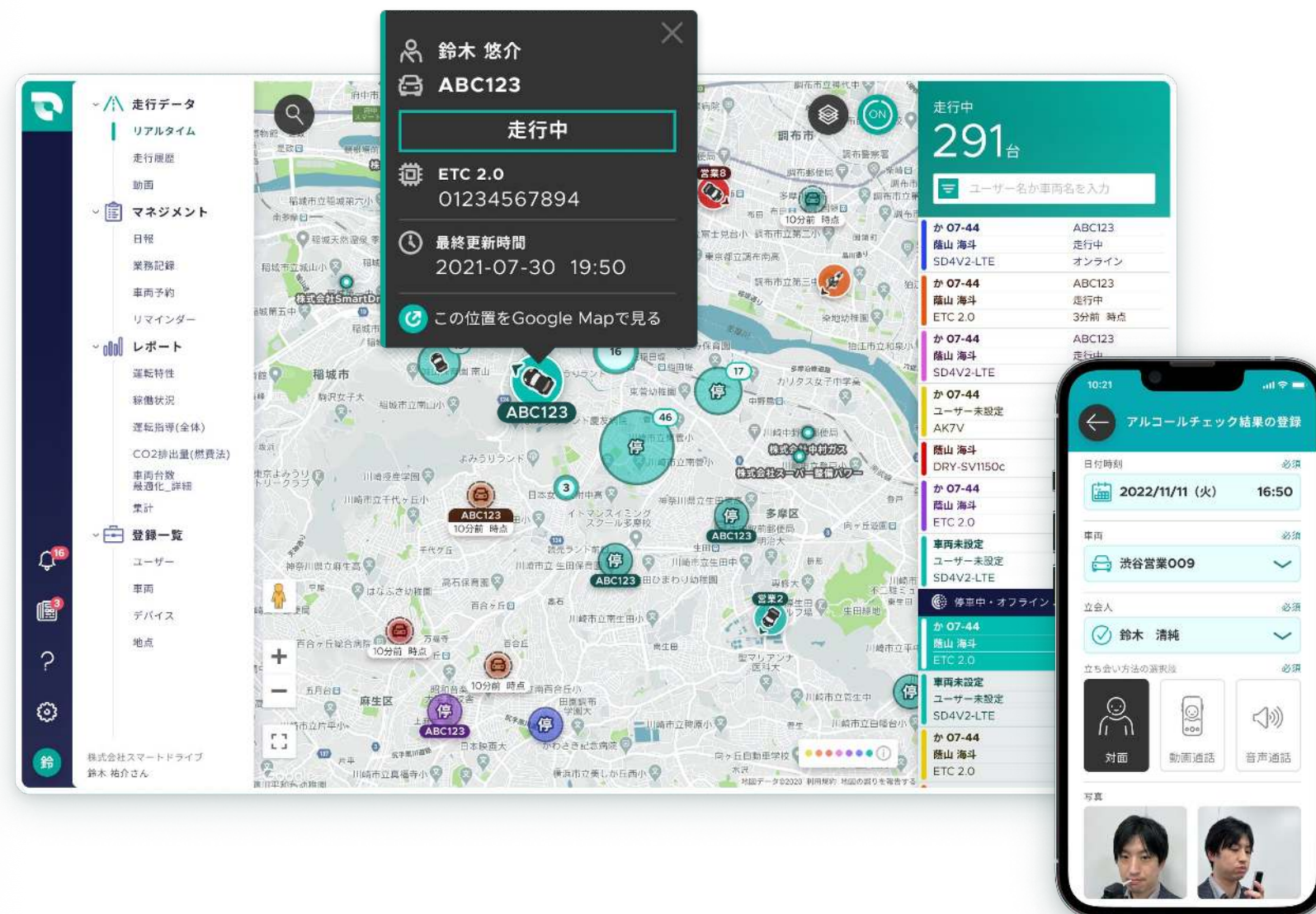
**効率的に取り組みたい場合は
SmartDrive Fleetがオススメ！**

04 SmartDrive Fleetでできること

クラウド型車両管理サービス SmartDrive Fleet

業種業界を問わず2,000社以上への導入実績 (2025年6月現在)

Webやスマホでリアルタイムに車両をクラウドで管理するサービスです。安全運転管理や法令遵守だけではなく、交通事故や保険料の削減のサポート、稼働率などの分析レポートの提供、日報の自動化や各種通知機能など、業務で車両を利用する企業の様々な課題をワンストップで解決します。



No. 1

経営者が使いたい法人向け車両管理サービス※1

ドライバーが使いたい法人向け車両管理サービス※1

クラウド車両管理サービス導入事例の掲載数※2

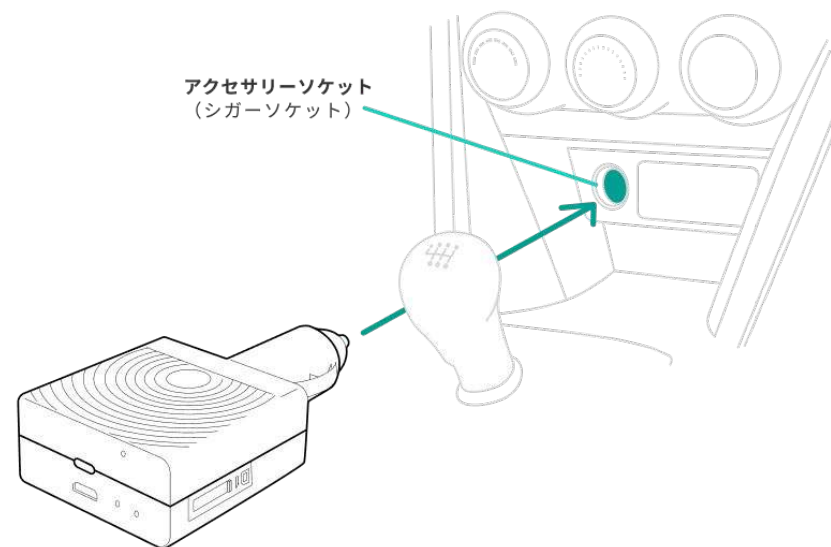
※1日本マーケティングリサーチ機構調べ調査概要:2021年5月期_ブランドのイメージ調査

※2日本マーケティングリサーチ機構調べ調査概要:2021年9月期_指定テーマ領域における競合調査

始め方は簡単！車載器を設置するだけ

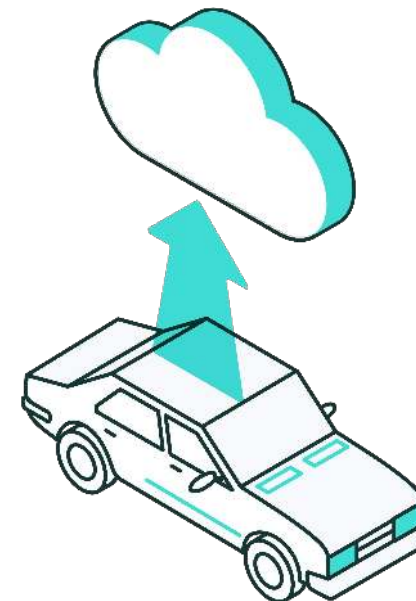
燃費改善と移動時間削減のためには、**実際の走行状況を正しく把握して対応**することが不可欠です。
一方で、それらを日々の**日報や予約状況で確認・集計するのは手間**がかかります。SmartDrive Fleetであれば、**車載器を挿すだけ**で簡単に必要な情報を把握して燃費削減や移動時間の削減に向けた対策ができます。

STEP 1: 車両にデバイス設置



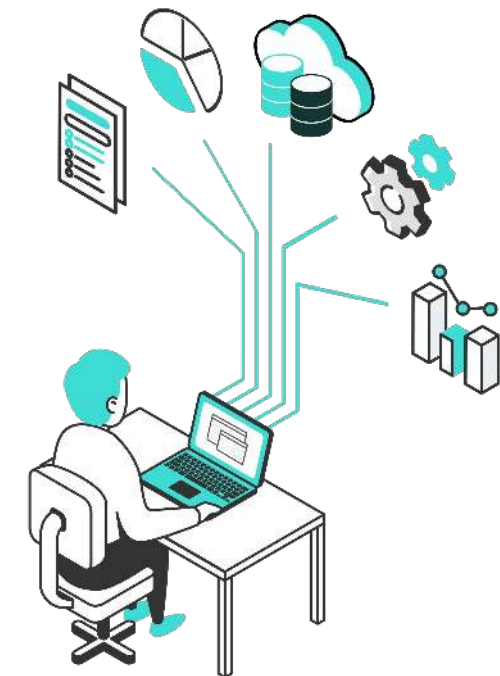
GPSデバイスを
車両に取付ます。

STEP 2: LTEでデータ送信



走り出すとヒヤリハット画像や
走行データが自動送信されます。

STEP 3: クラウド上で可視化



車両の挙動やヒヤリハット動画を
クラウド上で可視化します。

始め方は簡単！車載器を設置するだけ

車両による移動の現状把握を効率化

運転に不慣れな方でも燃費改善

運転日報

車両の予約管理

日常点検



10:21

← 車両を予約

利用日を選択

2022/11/11 (火) 10:00 から

2022/11/11 (火) 11:00 まで

車両

渋谷営業009

ドライバー

田中 太郎

メモ

予約



10:21

← 車両を予約

利用日を選択

2022/11/11 (火) 10:00 から

開始時刻を選択

2022年 11月 11日 00

2023年 12月 13日 02 00

2024年 14日 03 15

15日 04 30

キャンセル 決定

予約



10:21

11月10日(水)

現況 作業 記録 サマリー

フィルター

7:58 業務中

8:00 フィット所沢ぬ 12-34

8:02 日常点検記録
フィット所沢ぬ 12-34

8:03 アルコールチェック
北村和人0.00mg / 立会者：本野 裕

8:10 荷積み
XXXXX株式会社様納入用
MIKUNI2
25台

業務 地図 車両 分析 メニュー



10:21

← 訪問先追加

訪問先 (0/128)

1234病院

メモ

〇〇を納品

削除 保存



10:21

← 日常点検結果の登録

日付時刻

2022/11/11 (火) 16:50

車両

渋谷営業009

点検実施者

田中 太郎

エンジンルームをのぞいてここを点検

1 ウインドウウォッシャー液の量

2 ブレーキ液の量

3 バッテリー液の量

業務 地図 車両 分析 メニュー



10:21

← 日常点検結果の登録

すべてチェック済みにする

写真

写真No.2を追加

異常報告

異常なし 異常あり

メモを入力

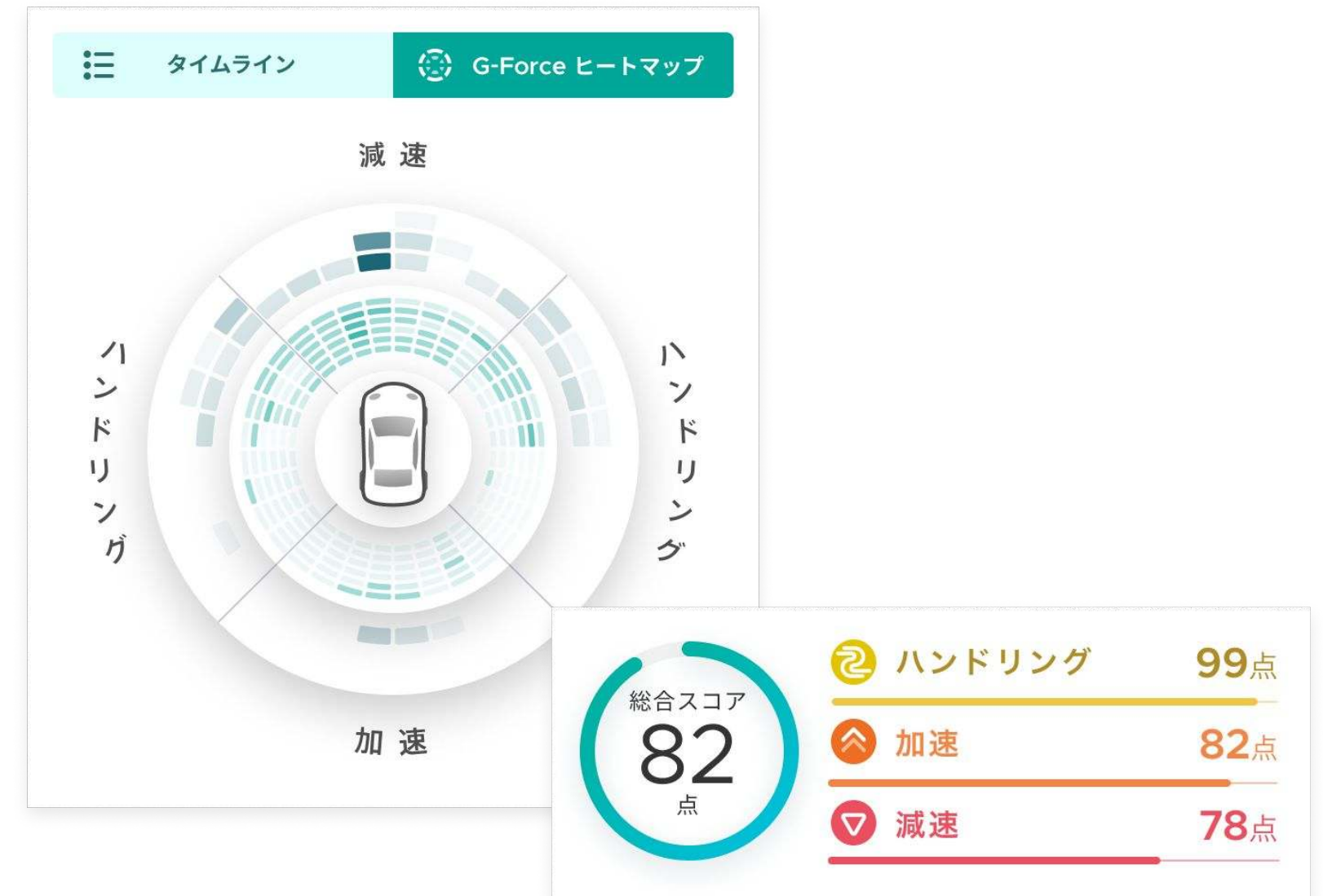
登録

急操作を減らすことで燃費を抑制

急加速、急減速などの「急操作」を可視化し、回数を減らすことで燃費改善に

ドライバーの運転度合いを100点満点のスコアで算出し、改善活動に活かすことが可能です。

急操作が行われた場所はストリートビューで状況を確認し、ドライバーとのコミュニケーションに活用することができます。



CO2排出量（燃費法）

レポートを活用してより精緻に測定や分析を行うことができます

概要

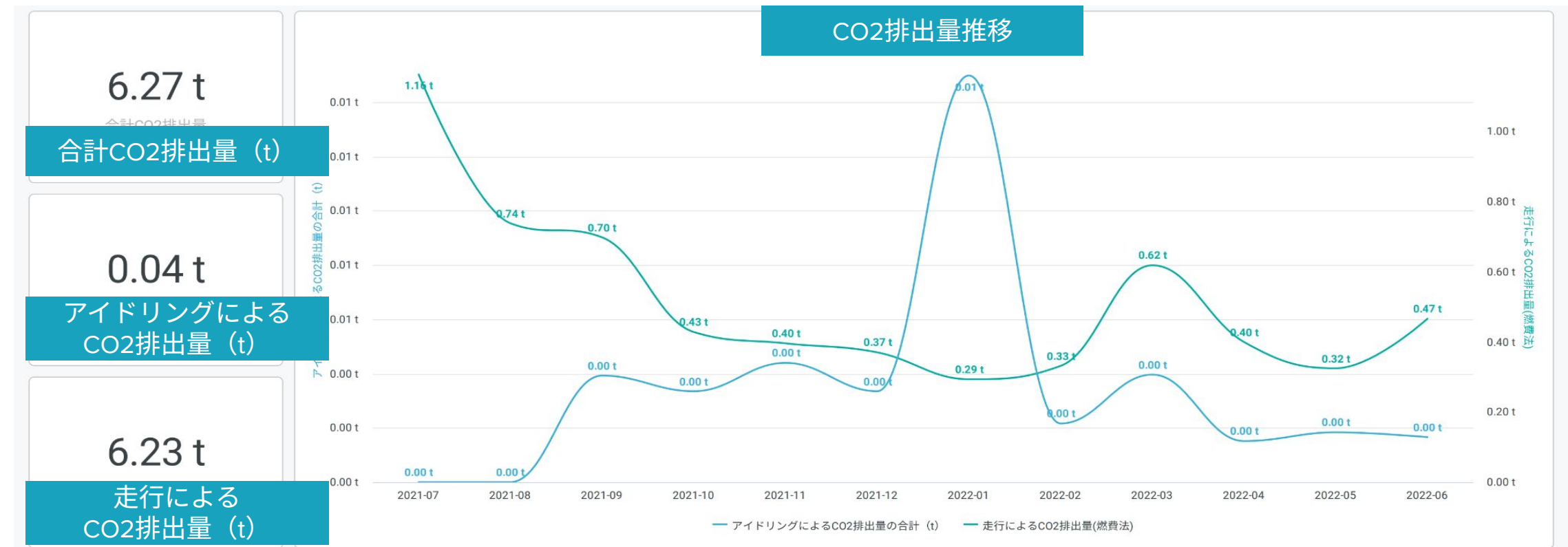
燃費法に準拠したCO2排出量を可視化が可能。

（フィルタ）

- 期間: 任意の期間
- 集計単位: 日・週・月
- 10分アイドリングあたりの二酸化炭素排出量（g）: 環境庁大気保全局のデータを元に一律90gで計算
- 燃料別CO2排出係数: 燃料区分（ガソリン／軽油／LPG）に基づく
- 車両名・車両グループ名

導入効果

走行データと動産情報を元に、CO2排出量を可視化します。車両ごと車両グループごとに確認ができ、SDGsへの取り組みの成果の報告レポートとしてご利用いただけます。



移動を減らす

走行ルート・エリアを可視化

拠点/スタッフごとの走行エリアを把握することができます

スタッフや拠点別の走行ルート、出発地・到着地を地図上で確認することができます。運転時間が長い場合は、一部の取引先を他の従業員に引き渡すことで、本来の業務に充てる時間を最大化できます。



訪問回数を可視化

取引先への訪問回数・滞在時間を把握することができます

登録地点名(取引先)ごとに訪問している回数や滞在時間を確認することができます。取引先ごとの売上とかかる工数を比較し、適切な時間配分を検討していくことができます。

地点別実績

登録地点名	訪問回数	合計滞在時間 (時間)	平均滞在時間 (分)
西大井拠点	11	12.6	68.8
国立拠点	10	0.7	4.4
橋本拠点	8	10.6	79.4
葛西拠点	8	11.6	87.1
吉川拠点	7	5.5	47.1
FASTGYM24 西大井	5	6.8	81.1
町田拠点	5	0.5	5.7
JA横浜鶴見支店	3	5.1	102.5
阪急大井町ガーデン	3	1.1	22.4
自宅	3	0.3	7.0
イオン駒岡店	3	1.7	33.1
楽天株式会社/本社	2	2.7	80.0
鶴沼拠点	2	0.1	4.0
駐車場	1	0.1	4.0
タイムズ ヒューリックスクエア...	1	2.1	124.6
昭和シェル石油 富ヶ谷 SS (昭和...	1	0.8	46.5
目黒駅	1	0.2	13.8
JA相模原市旭支店	1	0.3	16.7
新宿駅	1	0.9	53.3
ど・みそ 八丁堀店	1	0.5	27.0

1ヶ月の訪問回数を3回削減すると
3回/月×68分=204分の削減可能性

1回あたりの滞在時間を27分短縮すると
8回/月×27分=216分の削減可能性

1回あたりの滞在時間を21分短縮すると
5回/月×21分=105分の削減可能性

1回あたりの滞在時間がなぜ2時間を超えてしまったのかを確認

移動を減らす

運転時間を可視化

運転時間を可視化し、本来業務に充てる時間の最大化を目指すことができます

運転時間は、本来の業務ができない時間になるとともに、事故リスクやガソリン代、CO2を排出するなど、業務にプラスに働くことはありません。運転時間を削減していくことが生産性向上・経費削減・CSRの観点から重要です。

担当者
A



運転時間
(45時間)

現場作業時間
(55時間)

社内業務時間
(60時間)

担当者
B



運転時間
(30時間)

現場作業時間
(70時間)

社内業務時間
(60時間)

担当者
C



運転時間
(60時間)

現場作業時間
(50時間)

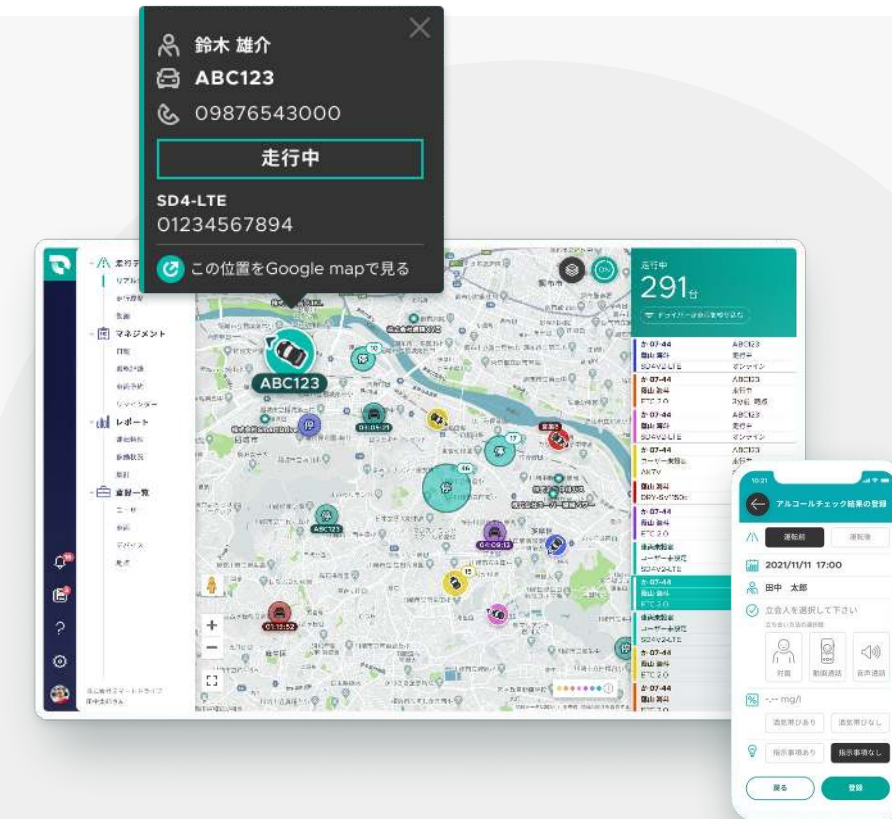
社内業務時間
(50時間)

まずはお問い合わせください！



<https://smartdrive.co.jp/fleet/service/price/>

料金についてはこちら



<https://smartdrive.co.jp/inquiry-demo/>

機能など具体的な
相談はこちら

その他ご不明点はお気軽にお問合せください。

株式会社スマートドライブ

TEL: 03-4405-0507 (平日10時~18時)

MAIL: marketing@smartdrive.co.jp

HP: <https://smartdrive.co.jp/fleet>